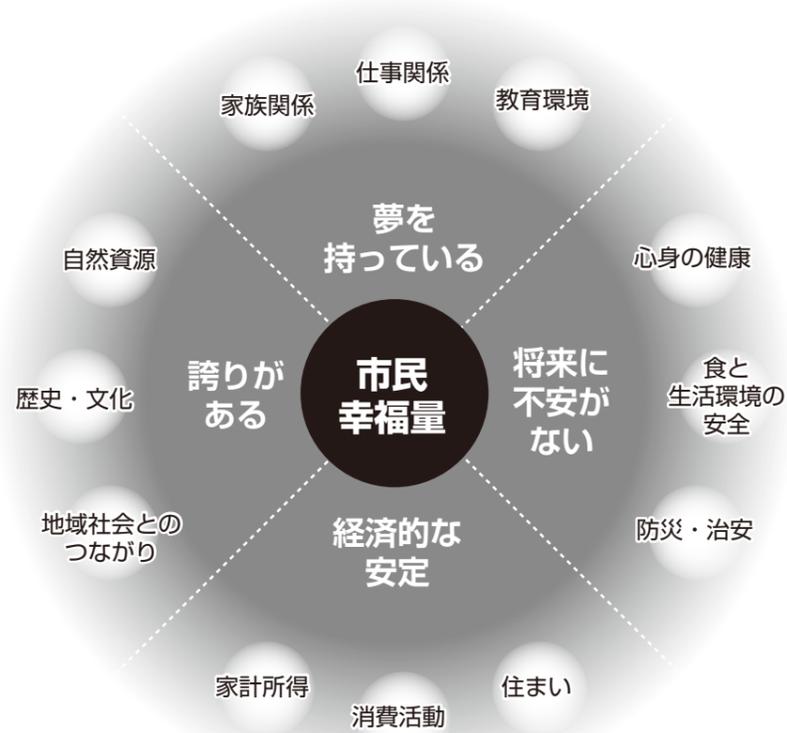


◆市民全体の幸福（市民幸福量）を構成すると想定されるイメージ図



この分類、12の項目の幸福要因（左図参照）に関して、幸福を感じるために重要な条件と、その満足度についてお尋ねしました（グラフ2）。重要な条件としては、「経済的な安定」がもっとも高い値を示しているが、満足度も最も低い状況となっています。

市民全体としては、「経済的な安定」が重要と考えていながら、これに満足していないこと、また、自然資源や歴史・文化などの「誇りがある」は、幸福との関係ではあまり重視されておらず、身近にあって満足しているものと考えられます。

『幸福』を意識した取り組みに向けて

近年、「豊かさ」を測るものさしとして、経済の成長など“物質的な豊かさ”だけでなく、人々が抱く幸福や満足感といった“精神的な豊かさ”にも着目し、幸福を数値・指標化しようとする取り組みが、世界中で行われています。

そこで今号では、人々の幸福を意識した本市での取り組みについて紹介します。

なぜ「幸福」の数値・指標化なのか

私たち一人ひとりにとって、幸福と感ずる対象や事柄はさまざまであり、それを測定し数値・指標化することはとても難しいことです。しかし、国の豊かさや経済力を示す目安となるGDP（国内総生産）などの指標だけでは、実際に人々がほんとうに豊かで幸せなのか、を判定することはできません。そこで、人々が抱く幸せに着目し、幸せそのものを測ろうという取り組みが世界各国で広がっています。

日本では、内閣府において平成22年に「幸福度に関する研究会」が立ち上げられ、昨年12月には同会が研究報告として幸福度指標の試案を発表。また、熊本県をはじめ各地方自治体においても、幸福量の数値・指標化に向けた独自の研究が進められています。

国民の97%が「幸福」ブータン王国

南アジアに位置するブータン王国では、「国民の幸福」の実現を目ざして「国民総幸福量

(GNH = Gross National Happiness) という指標のもとで、幸せを究極の目標として国を発展させる取り組みが進められています。このような中、2005年に行われた同国の国勢調査では、国民の97%が幸福と感ずているという結果が出ています。

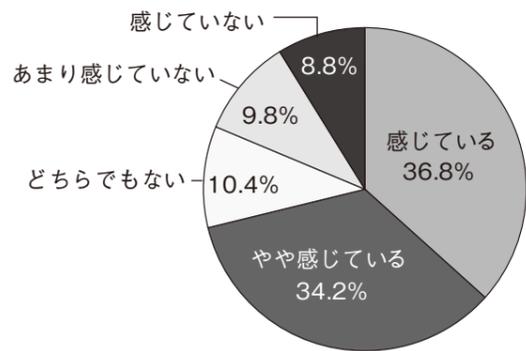
「市民の幸福に関する意識調査」を実施

市では、今年1月に「市民の幸福に関する意識調査」を実施しました。そこで、同調査結果の一部を紹介いたします。なお、詳しいことは本庁・企画課 ☎11111内線1316へお尋ねください。

- 調査の概要
- 調査対象 市内に居住する20歳以上の人を、住民基本台帳から無作為に抽出
- 抽出数 500人
- 回答者数 207人（男女比 男・45・3%・女・54・7%）
- 回収率 41・4%

●7割を超える人が「幸福」を感じていると回答
現在、あなたは幸せだと感ずているかという直観的な幸福度を

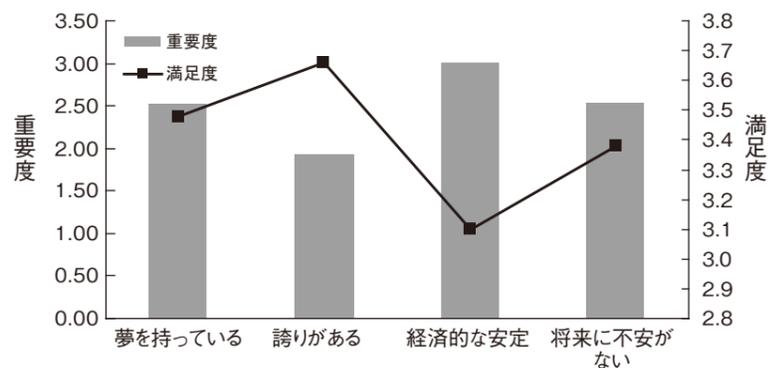
◆グラフ1 現在、あなたは幸せだと感ずてますか



今後の取り組み

今回の調査結果により、市民が幸福を得るためには『経済的な安定』が重要視されていることから、それに関する満足度の向上をよりいっそう図る必要があります。また、満足度が低かった「心身の健康」、「教育環境」、「地域社会

◆グラフ2 幸福を感じるために重要な条件とその満足度



とのつながり」などに着目した施策に取り組みことも、重要です。市では今後、同時期に実施した「市政に関するアンケート」の結果も踏まえながら、市民と行政が一体となって、幸福の姿を見出し、それに応じた有効な取り組みに力をつけていきます。

ブータン王国の概要

- 面積=38,394km² (九州とほぼ同じ)
- 人口=70.8万人
- 主要産業=農業、林業、電力
- 日本との交流



1986年3月に外交関係を樹立。2010年におけるブータンへの観光客のうち、日本人(3,136人)は米国人(4,786人)に次いで第2位。昨年11月には、同国のワンチュク国王とジェツン・ペマ王妃が国賓として、日本を訪問されました。

お尋ねしました(グラフ1)。「感ずている」と答えた人が36・8%、「やや感ずている」と答えた人が34・2%で、7割を超える人が幸福を感じています。

●「経済的な安定」を最重要視するも、その満足度はもっとも低い
また、市民全体の幸福(市民幸福量)を構成すると想定される4